

「(仮称) 滋賀の県立高等学校魅力化プラン」の検討に係る地域別協議会

甲賀地域 結果概要

1 会議の日時等

開催日時 令和4年11月10日(木) 14:00~15:40 (甲賀合同庁舎4A会議室)

市町	氏名			
湖南市	今村典生	大濱早苗	城 敬	祖母井正樹
甲賀市	築島照和	松尾圭三	川村尚雄	立岡幸司

(敬称略)

◇滋賀の県立高等学校の魅力化について

2 出席者からの主な意見

①	中学生は、体験入学等を通して各高校の特色を知っていく。あわせて、この魅力化プランは、5つの重点項目で各高校における魅力化の方向性の観点を整理されているので、目的や見通しを持って高校選択できると感じた。
②	この魅力化プランからは、それぞれの県立高校の特色・魅力を打ち出しながら、今後の魅力化の方向性を考えられていることがよく伝わる。
③	「こんなことを学びたい」「こんな学科があるのでこの高校を選んだ」という生徒は少なくなっている。普通科の中でも特色の違いがあることを知った上で高校を選べるように、中学校でしっかりキャリア教育に取り組む必要がある。
④	保護者は、カリキュラムや少人数授業等のような指導形態に関心を持っている。
⑤	生徒や保護者に対して、中学生の早い学年で各高校の魅力が伝わっていれば、甲賀地域に限らず、他地域も視野に入れて高校を選択することができるようになる。もっと早い段階で、それぞれの県立高校の特色・魅力を周知してほしい。
⑥	保護者には、それぞれの高校の魅力はあまり伝わっていないので、広く周知できれば高校の選択肢の幅が広がると思う。
⑦	高校の体験入学では、教職員による説明だけでなく、身近な先輩である高校生による説明を多く取り入れた方が、中学生の興味・関心を引くことになるのではないかな。
⑧	生徒や保護者は、施設・設備面も気にしている。きれいな校舎も魅力の一つと思う。
⑨	例年、一定数の生徒が天津・南部地域の高校へ進学しているものの、大半は地元の高校へ進学している。地元の高校で学ぶことが、生徒や保護者の考えの基本になっている。
⑩	生徒が天津・南部地域の高校に集中している。この傾向は、中高一貫教育校でも同様である。保護者は、大学進学等を見据えて高校選択する傾向が強いので、地元の高校でも、生徒が希望する大学等へ進学できるようにしてほしい。
⑪	普通科を希望する生徒・保護者の選択基準は、「通学しやすさ」と「大学等への進学実績」ではないか。この魅力化プランたたき台では、普通科である甲西高校と水口高校は、「高大連携重点」か「生活・スポーツ・芸術系重点」で特色の違いを出している。甲西高校はコースを設定していないが、大学進学に向けた学びについてもっと具体的な記載があれば、学校の特色がより明確になるのではないかな。
⑫	子どもたちの自信や具体的なキャリアイメージにつながるような体験的な学びが充実した高校づくりに期待している。また、普通科の中に特色あるコースを設置し、様々な体験的な学びによるキャリア形成につながるカリキュラムを編成してほしい。

⑬	子ども一人ひとりのキャリアを実現させるための魅力化プランであり嬉しく思う。小中学校の段階から自分の将来像を積み上げていく取組をしているが、それらのキャリア教育の積み上げが高校に入学して途切れないようにするために、高校の特色を中学生・保護者に分かりやすく伝えてほしい。
⑭	近隣の中学校と高校同士が、連携を密にして子どもたちを育てていく必要がある。
⑮	学習面や対人関係の苦しさを理由に学校を辞めたいと考える生徒が多い高校にこそ、通級指導等のように、生徒が持つ特性に応じて専門的な相談ができる教員配置が必要ではないか。
⑯	中学3年生は、夢と希望を持って高校へ進学する。ところが、家庭事情や学校になじめない等の理由で支援が必要な生徒は増えている。これらの生徒たちが、高校やその他専門機関で相談できる仕組みがほしい。
⑰	外国にルーツを持つ児童・生徒・保護者は、高校入学後もしっかり支援してもらえるのかを気にしている。
⑱	外国にルーツを持つ生徒が、高校入学後に苦労しているという話を聞く。市町と関係部署は、連携して日本語教育も含めた学習支援に取り組んでいくことが必要である。
⑲	年々、外国にルーツを持つ人たちが増える中で、それらの人たちの生活のサポートが求められている。日本語が十分理解できない保護者のために子どもたちが通訳している現状がある。多文化・多様性の理解が求められる社会において、高校の在り方も考える必要があるのではないか。
⑳	外国にルーツを持つ人たちが地域に参画することは少ないが、外国にルーツを持つ子どもたちのサポートは必要である。高校でもサポートしてもらえることがあればありがたい。
㉑	外国にルーツを持つ生徒が、高校に入学してからも、その生徒が持つ力を生かせるような人的整備をお願いしたい。
㉒	大半の中学生は、普通科高校へ進学している。中学2年次での「中学生チャレンジウィーク（就業体験）」がコロナ禍で十分できていないことから、今後、職業系専門学科等を選ぶ生徒が減少していくのではないか。
㉓	甲賀市では、中学生が様々な業種で働く方々の話を聞く取組をしているものの限界がある。中学校での進路学習において、魅力化プランを活用するなど、中学生がそれぞれの高校の特色を知り選択できるような取組が必要と感じた。
㉔	地域の方々にとっては、若い高校生と関わりを持つことで、やりがいや元気が出て地域活性化につながる。
㉕	湖南市が抱える大きな課題として、若年層の転出による人口減少が挙げられる。中学生や高校生の段階で、いかに郷土愛を醸成するかが一つのポイントと考えており、若年層のまちづくり参画は重要である。
㉖	高校生と大学生のつながりの仕組みづくりを考えており、転出しても将来のUターンにつながるための種まきが必要である。
㉗	中学校は、地元とのつながりが深く地域連携の取組が充実しているが、高校になるとそのつながりが途切れるという地域の声がある。地域連携重点においては、「地元を知る学び」と同時に「地元を知ってもらう取組」も必要で、それが若年層による地域人材の育成につながる。
㉘	地域の産業を担う人材育成とあわせて、地域をどうやって良くしていくかの視点から、地域の学校や行政の担い手育成も大切ではないか。教職員の仕事に対する魅力が低下し、その担い手不足が深刻な問題である。滋賀の教職員養成は必要ではないか。
㉙	現行の推薦選抜では、校長からの推薦が必要となっているが、中学時代に様々な体験学習に取り組んでいることを踏まえて自己推薦の形態もあっていいのではないか。
㉚	中学校の部活動が地域移行していく中で、スポーツ推薦の在り方を考える必要があるのではないか。

⑳	信楽高校は、地域密着型で特色ある教育活動に取り組んでいる。アート留学で県外各地から入学してくる生徒は、リーダーシップを発揮して信楽高校の活力を生んでいると思っている。
㉑	基本方針の対象期間が、令和4年度から令和13年度の10年間とある。しかし、県立高校の魅力化への取組は差し迫った課題と思うので、より早く魅力化プランを作成してほしい。
㉒	地域別協議会で出た意見を受け、それをしっかり実行に移してほしい。
㉓	子どもは少しのことで自信を持ったり、自信をなくしたりする。先生が生徒に寄り添い、学校全体でフォローできる組織づくりを進めてほしい。

※発言順不同